

「IPM でつくる無農薬レモン」

河合果樹園 河合 浩樹 代表

私が目指している農業形態が3つあります。1つ目が情報発信型農業。環境保全型や地域に貢献する農業をしても情報を発信しないと何も伝わりません。2つ目が企画提案型農業。例えば私どもが提案を行った「初恋レモンプロジェクト」は、5社の加工業者と連携し、加工品を販売しています。3つ目は環境保全型農業。極力、農薬、化学肥料を抑制します。ホテルと契約して、乾燥した生ごみをうちが発酵させて使うという提案もしています。

当園の無農薬レモンはとても高品質です。ハウス栽培で、発酵させた肥料を入れており、皮が非常に柔らかく果汁が豊富です。ハウスの中で積算温度をしっかりとかけると甘みが出ます。糖度はみかん並です。環境保全型農業をやると、品質が落ちるのではと思われるかもしれませんが、農薬や化学肥料を減らしても、品質が落ちないという技術があります。

無農薬レモン栽培におけるIPMの前提条件が3つあります。1つ目が、善玉菌優勢状態を極力維持すること。灰色かび病が出ないように、善玉菌を優勢にし、ほかの菌でマスクすると良いのではと考えました。試行錯誤した結果、現在では善玉菌の葉面散布を年間で20数回行って対応しています。

2つ目が昆虫の多様化。無農薬レモンをつくるに当たり、害虫対策が非常に大変でした。当初、イセリアカイガラムシが大発生して大変困りました。がまんして農薬を使わない体系を続けたところ、ベダリアテントウという天敵が入ってきて、今では低密度で推移しています。品質には全く影響はありません。害虫がいれば、それを食べる天敵がやってくるので、ハウス内に環境を整えていけば害虫は少なくなります。

3つ目は環境コントロールができること。まずは、風の流れ。害虫が発生する場所は決まって空気が澱んでいます。季節によって、ハウスの開ける場所を調整します。2番目は、光の強さ。夏場など遮光ネットで覆うと、環境が安定します。3番目は温度。レモンの発育ステージを少しずらすことで、害虫の発生する時期をずらすようにします。4番目は湿度。夏場は上から水をかけたりして、ハウス内の湿度を上げます。5番目は除草。コニシキソウやカタバミなどの草の下に、いろんな虫が隠れているので、取らないようにしています。1年間取らないというわけではなく、虫を観察しながら、取ったりする時期もあります。

環境保全型農業推進の私が考える3つの仕組みがあります。まず、環境保全型農業に取

り組んでいる生産者と農産物の情報発信です。ホームページやブログなどで生産者自身が発信します。また、シンポジウムに参加されている皆さんにも、情報発信をお願いしたいと思います。第三者の情報発信は社会的に非常にいい刺激になります。

次は、環境保全型農業で生産された農産物の買い支えです。皆さんに買い支えてもらってはじめて、また来年もつくることができます。一人一人にそういった意識を持ってもらう事が大切です。

3番目は、地域文化としての意義の明確化です。地域の景観や魚や昆虫、カエルがいる素晴らしさを価値あるものとして、情報発信を皆さんにしていきたいと思います。

以上、3つの視点で、環境保全型農業に日々取り組んでいます。